

徒然想

この時期、話題になりやすい 2008 年「今年の漢字」ですが、既にご存じのとおり日本漢字能力検定協会(京都市)の公募で「変」という漢字が選ばれました。清水寺の森清範貫主(かんす)により揮毫(きごう)されたニュースは記憶に新しいところだと思います。ちなみに、2 位は「金」、3 位は「落」。続いて「食」「乱」「高」などが続いたようです。確かに、今年はいろいろな「変」がありました。サブプライムローン問題に端を発した世界経済の大変動、日本でも短期間で総理が変わり、社会保険をはじめとする大混乱、環境悪化や気候変動、その他なんか変だなと思う事も相変わらずたくさんありました。いったい何が「変」の根幹なのだろうかと静かに考えておりますと、人間としての「価値観」にも変化の時が訪れている気がしてなりません。来年は、「変」が「乱」に発展することなく、地球レベルでの改善と前進に変わっていく 1 年であってほしいと切に願っています。

Technical Topics KRC技術情報

世界遺産 石見銀山遺跡 清水谷製錬所跡のCGによる復元

島根県の石見銀山遺跡が世界遺産化登録され、今年7月で1周年を迎えました。世界遺産に登録されて以降、多くの観光客で賑わう石見銀山遺跡ですが、遺跡の全体像を来訪者にわかりやすく紹介するための施設「[石見銀山世界遺産センター](#) [ガイダンス棟](#)」が 2008 年 10 月 4 日にオープンしました。

館内は、4つのエリア(「輝き再び石見銀山」「鉱山と技術」「遺跡情報」「映像」)に分かれており、それらを回ることによって同遺跡の大まかな理解ができるよう工夫されています。当社は、その中の「鉱山と技術」エリア内の映像ビデオ「CG で甦った清水谷製錬所(約 4 分間)」を制作しました。



図 2 CG による地形(石垣)の復元



図 3 CG による建物等の復元

石見銀山遺跡には広範囲にわたって多くの遺跡が点在していますが、このビデオは、その中でも最大規模を誇る清水谷製錬所跡(写真 1)を紹介したものです。

清水谷製錬所は、明治 28 年 4 月に操業が開始された、近代的な銀の製錬所跡です。現在は建物が建っていた石垣が残るだけとなっていますが、当時は、機械選鉱場、焙煎室など 10 棟以上の建物が建ち並んでいました。

当社では、当時の古写真をもとにそれらの建物の位置や規模を推定し、遺跡全体を CG により復元しました。復元にあたっては、3Dレーザスキャナで現状の地形と石垣を精密に計測し(図 1)、さらに石垣面については写真測量を行いました。そして、3Dレーザのデータから、地形形状モデルを作成し、石垣などの写真を貼り付け、正確な地形モデルの作成を実現しました(図 2)。

非常に精密でダイナミックな映像となっています。機会がありましたら、ぜひ世界遺産センターへ足をお運び下さい。



写真 1 現在の清水谷製錬所跡



図 1 3Dレーザによる計測結果

(株)計測リサーチコンサルタントへのお問い合わせは、

電子メール: krc@krcnet.co.jp

ホームページ: <http://www.krcnet.co.jp/contact/contact.htm> で承っております。